

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800449		
法人名	秩父福祉会		
事業所名	グループホーム ひなた		
所在地	埼玉県秩父市吉田久長193		
自己評価作成日	令和8年2月1日	評価結果市町村受理日	令和8年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和8年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年開所以来、法人の基本理念「安全・安心・ご利用者本位の、地域に開かれた施設運営」を目指しています。利用者一人ひとりが「自分らしく、安心して暮らせる場所」を目指し、日常生活の支援と心のケアに力を入れています。家庭的な雰囲気の中で、食事・掃除・洗濯・服薬管理などの日常生活の支援、少人数ならではのきめ細やかな対応を行い、利用者の尊厳と自立を大切にしています。利用者、家族から「ここでもよかった」と思っていただけのように、これからも寄り添いながら、笑顔あふれる日々を送れるよう目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●ワンユニットによる良さを活かし、丁寧なケアが実現しています。会議時には「気づきシート」を活用し、職員に留意事項を指導するなど細やかな考察の積み重ねが利用者の安全・安心な暮らしを支えています。
 ●日中はリビングに集い、職員が作成したレクリエーションツールを使用するなど活動がなされています。日中は玄関の施錠をしないなどグループホームらしさにこだわる支援が実現しています。
 ●意思疎通が難しい利用者に対しても好きだった音楽を流して反応を見るなど工夫と考察を重ねた支援がなされています。また、居室担当職員からの報告をもとにケアプラン策定がなされており、何よりも生活を知る職員の意見を尊重した運営がなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の「感動共有」、「白砂恵慈園三訓」「おもてなし三訓」を基本理念として毎日唱和してから、業務を行っている。	「ひなた会議」等にて服務・適正な支援について説明・指導している。ベテラン職員による丁寧なケア・管理層による取り組み・法人によるバックアップが安定した運営につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症に注意しながら可能な限り外出の機会や散歩を設けている。併設のデイサービスセンターとの交流なども行っている。面会は通常通りに行っている。	散歩の際には、挨拶などを通して地域の方々との交流が図られている。敷地内には特別養護老人ホームやデイサービス等が設置されており、施設全体としてこれまで地域に貢献してきた実績から、地域住民の信頼を得ている。	法人内に小規模多機能型居宅介護事業所を有しており、相互の連携・相談・ケア方法の共有により安定した運営や取り組みの充実がもたらされることが予想・期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人内の部署とも連携し入所申し込みや認知症の相談があった場合には助言や支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染状況を見ながら対面での運営推進会議を行っている。活動状況の報告、委員との意見交換や情報提供、助言をいただいた。同法人内の部署と合同での運営推進開催も行った。	家族、行政、地域包括支援センター、民生委員等の方々が参加し、定期開催がなされている。活動の報告により理解を深めてもらえるよう努めている。	運営推進会議を自ホーム内で開催することにより、地域の方々にホームの様子を見てもらう機会とできる。職員以外の方との触れ合いの増加にもつながることが予想される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時には、委員長、秩父市役所吉田総合支所市民福祉課課長、吉田包括支援センター職員、民生委員等と情報共有を行っている。日頃から良好な協力関係を築いている。	運営推進会議への招待などを通じ行政、関係機関とは、様々な相談ができる関係性が構築されている。市内グループホームのネットワークにも参加し、取り巻く環境の情報収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯と安全上19時から7時まで施錠を行っている。 月1回の会議や勉強会を通じ身体拘束への理解を心掛け、状況に応じて見守り対応を行っている。	身体拘束廃止委員会の開催、毎月の「ひなた会議」内にて適切な支援について指導にあたっている。日中は玄関に施錠をしないなど丁寧な見守りの継続・職員の方々の尽力にあらためて敬意を表する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期会議で高齢者虐待防止について学びを深め職員間で虐待防止の共有を図っている。不適切なケアが虐待を引き起こさないよう確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解だけでなく、利用者の「意思」を尊重する姿勢を想定し、権利擁護や成年後見制度の重要性やチームで支える体制づくりを研修会等通じて学び活用へとつなげる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時にはご家族様やご本人に同席して頂き、契約書や重要事項説明書の内容を丁寧に説明し、理解と同意を得ています。更に不安や疑問等がないかの確認も行いながらすすめています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ家族代表の方に出席いただいたり、面会時に意見・要望は気兼ねなく話せる雰囲気作りに努めている。会議や業務内で検討し運営に反映させて行きたい。	面会の実施、便りの送付等により関係の継続を支援している。面会の居室での実施、予約の無については感染症予防等を踏まえ、今後の検討事項としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期会議等を通じて、職員と意見交換やコミュニケーションを図り、普段から意見や提案を積極的に聞くように心掛けている。	毎月の会議時には、居室担当職員からの報告を中心に利用者の支援方法の検討に取り組んでいる。また、各種研修もあわせて実施しており、計画的な職員育成と指導にあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を反映したシフト調整や希望休制度を導入している。法人内の労働安全委員会や法人内の代表者会議、Zoomによる昼礼会議等で職場の改善に向けた提案を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例会議で職員が講師となり伝達研修を実施。職員のスキルアップに努めている。育成は一部の人の仕事ではなく、全職員の役割として共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より埼玉県認知症グループホーム・小規模多機能協議会に加入。研修への参加により同業者との交流をする機会により幅広い情報の獲得でサービスの向上を担っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人、家族、ケアマネジャーから情報収集を実施。初めての利用であっても安心してサービスを利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや生活歴、入所にあたっての心配事を可能な範囲内で希望に添えるよう努め信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のこれまでの取り組みや要望等を確認し、地域の福祉サービスの紹介や説明を行い、適したサービスの助言をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場に立ち、それぞれの思いに耳を傾けられるように心がけ、本人にできることは行っていたきくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をお便りや電話で家族に報告、来訪時に利用者と家族との会話やふれ合いを大切にし、心穏やかに過ごせるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内にコロナ感染症等がなければ、感染対策を行いながら、面会を実施している。コロナ感染により希薄となった馴染みの関係継続が図れるよう努めている。	家族以外の方との面会を支援している。また、編み物・塗り絵など利用者の趣味継続支援、熱中できるレクリエーションツールの作成など工夫した利用者を配慮・尊重した取り組みがなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や相性などを考慮し職員が間に入り、話や体操、レク、作業が一緒に行えたり、談笑出来るように咳の配置や配慮を心がけ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時家族には必ず「家族や近所の方で何か介護の事で心配なことがあればご相談下さい」と話している。退所後も声をかけてくれる家族もいらっしゃいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりや会話の中で、本人の要望等を聴き取り、困難な場合は家族にも相談し協力や職員間で支援できるように検討している。	アセスメントシート等各種ツールが整備されている。意思疎通が難しい利用者に対しても好きだった音楽を流して反応を見るなど工夫と考察を重ねた支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの生活歴、暮らし方、生活環境、趣味や嗜好の聞き取りを行い、職員間で情報の共有と把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴やグループホームで生活する中で日々変化する利用者の状態を記録等で職員間で把握共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の状態で変化があった場合、家族に報告し、面会や連絡時には本人の状態報告を行っている。本人や家族の要望を踏まえて介護計画を作成している。	居室担当職員からの情報提供を参考にケアプランの策定にあたっている。また、策定されたプランは、会議時に報告・閲覧するなど支援方法の統一につながられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、バイタル、食事摂取量、排泄状況、気づき等記録している。職員は出勤時に目を通し、会議でも職員間で情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状態や要望に応じて通院・買物、理美容・書類の手続き等臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源とグループホーム・入居者を結びつける事が課題と考えている。地域包括支援センター等と連携し地域資源の利用により安全で豊かな暮らしが支援を行いたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望を優先し、かかりつけ医との連携に努めている。ご家族様の付き添いが困難な場合は速やかに受診介助を実施している。	家族が同行できない場合には職員が付き添い、受診がなされている。ドクターからの指示を聴く、家族へ報告するなど利用者の健康管理について連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護職は在籍していない。、同法人内のデイサービスや特養の看護職員と連携を図り、日常生活の中で気づきや状態の変化が生じた時には相談協力を仰ぎ、受診や急変時の協力体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と連携し、情報交換を行っている。退院へ向けた調整や看護サマリーのアドバイスを活用し退院後の生活援助が速やかに送れるよう病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の希望を伺い、重度化、終末期になった際には改めて希望伺っている。同法人内の特養への入所やホームでの看取りその他の方法を家族の気持ちに寄り添いながら支援連携に努めている。	利用者の重度化に伴い、入浴、移動・移乗など工夫しながら支援にあたっている。利用者の体格、施設の装備などを考慮し、支援方法の検討に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内の定例会議内での研修や、緊急時のマニュアルを整備・検討を行い急変や事故発生時に対応できるように備えている。施設内にAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練の実施と消防署の立ち合いのもと避難訓練も実施している。非常時に備えて定例会議内でも机上訓練等実施している。	敷地内のデイサービス等と合同にて避難訓練を実施している。水害時の避難についても利用者に理解してもらえるよう工夫した取り組みがなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを研修等を通じて意識向上を図り、当法人の三訓をもとに接するよう心掛けている。	ワンユニットによる良さを活かし、丁寧なケアが実現している。会議時には「気づきシート」を活用し、職員に留意事項を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話やコミュニケーションを通じて自己決定できるよう当人の思いや希望を聴き出したり日常的な選択の機会を増やすよう会話をすすめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の流れはありますが、日々の関わりの中で、利用者の声を拾い、職員間で共有し無理なく過ごせるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはこちらで用意したものを着ていただいています。本人の希望で選んでいただく場合もあります。2ヶ月に1度、美容師にカットを依頼、している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っています。食事前後のテーブル拭き、手指消毒、洗濯量み、飲み終わったコップ回収等をお願いしています。食事中には音楽や画像を流し、口腔体操の実施で食事が楽しくなるよう心掛けています。	栄養価を考慮し、食事の提供にあたっている。低栄養状態からの脱却を目指す利用者に対しては、数種のゼリーを活用するなど対応に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し体調に応じた食事を提供しています。水分は毎食事の他、10時、3時に、1日1500mlを目安に摂取していただき、食事、水分量はチェックし記録、月1回体重測定も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケアとして義歯洗浄を実施、介助が必要な方については舌ブラシ、口腔ティッシュを使用し行い口腔内の清潔保持を行っている。自力で出来る方についてはお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンの把握により声掛けや定時交換で対応しています。排泄チェック表を活用し排泄時の様子や体調によってその都度対応している。	日々の排せつを記録し、間隔の確認により自立した排せつを目指している。水分の摂取に留意し、便秘だけでなく脱水の予防にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質を含む献立や牛乳の提供、1日1.5ℓ水分を摂取を目標に排泄チェック表を使い排便が見られない時には下剤等の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴、入浴日と時間は決めさせていただいています。ゆったりと入浴していただくよう心掛け、お風呂から上がる時には「いい湯だった」と言わせていただいています。	スケジュールを決め、定期的な入浴の実施・家庭的な浴槽による清潔保持に努めている。清掃・温度管理により安全な入浴となるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促したり、安眠へ向けて照明・室温を整え安心して休んでいただけるように支援しています。不眠がみられる場合にはホール等で過ごしてもらう等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を朝昼晩に分包し、服薬時には職員2名で利用者名と薬があっているか確認、服薬の確認。薬の変更は、職員間でノートへの記入や申し送りで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活の中で利用者それぞれに役割を持っていただき、出来ることを行えるよう支援して頂く。バランスボード、ホーム内のウォーキングの実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対、人手不足、猛暑や寒波の影響で戸外への散歩、ドライブなど外出は縮小せざるを得なかった。今後は徐々に機会を増やしていきたいと考えている。	季節の行事のほか、ハッピープランと題し、誕生日には利用者の行きたいところにでかけるなど注力した取り組みがなされている。利用者の状況にあわせて外出先を選択し、買い物など楽しい時間となるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣い金としてお金を預かり職員が管理している。購入時には家族の了解、収支報告を行っている。近くのコンビニ等で自分で選び買い物や回転すしにランチに出かけ喜ばれた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話や手紙のやり取りは難しいですが、家族からの届け物があつた時にはお礼の電話をかけている。手紙葉書が届いたときには本人に渡したり代読、その後居室内に掲示している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通じて温度、湿度、換気、照度に注意を払い居心地よく過ごせるように配慮している。 ソファを置いたり、季節の飾りつけを行ったりし、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	日中はリビングに集い、職員が作成したレクリエーションツールを使用するなど活動がなされている。利用者の心地よい暮らしを維持できるよう共有スペースの修繕等を施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入ったところで座れるようにホーム内にソファを置いたり、テレビを見たり出来るよう工夫している。また一人になりたい時には自室に行ったりと、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では気持ちよく過ごしていただけるように、馴染みのある物や家具の配置にも気を付け、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	居室担当職員による衣類管理、整理整頓を通して居室の維持がなされている。居室は、日記をつける・読書をするなどプライベートな空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・玄関に手すりを設置、居室やトイレの入口には表札を付け、安全に安心して自立した生活が送れるように努めている。		

(別紙4(2))

事業所名：グループホームひなた

目標達成計画

作成日：令和8年3月3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	2	法人内の小規模多機能型居宅介護事業所は、近接しているものの協働することが少なく、敷地内の他サービスと同様にさらに相談・ケア方法の共有を通じて連携が図れるものと捉えている。	管理者をはじめとする連携体制を強化し、ケアの質の向上と安定した運営体制を確立する。	・合同連携会議の開催 ・情報共有(利用者支援方法、事故防止、家族対応等) ・困難事例の検討会実施・研修の合同開催(ケア技術・認知症ケアの共有) ・職員交流の実施	12ヶ月
2	4	運営推進会議を外部施設で開催しているため、参加者の方々にホームの様子を見ていただく機会を逸している。	・運営推進会議を地域交流の場として活用し、開かれた事業所運営を推進する。 ・地域住民にホームの様子を見てもらう機会を設けることで、地域交流を促進する。	年6回のうち1回を事業所内で開催する ・会議前後にホーム内案内 ・利用者作品展示を見てもらいミニ作品展を開く ・会議後に利用者との茶話会実施 ・季節行事と同日に開催	12ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。